



受け継がれる 尊徳の教えと 報徳仕法

第25回 全国報徳サミット
筑西市大会

報徳学習発表

五所小学校の児童たちが報徳仕法について学んだことを紙芝居形式にまとめ発表しました。この日のために何度も練習を重ねてきた児童たちの発表に、会場から大きな拍手が送られました。

大会宣言

- 一、私たちは、報徳の教えである「至誠」、「一元融合」の精神に基づき、一人ひとりが他を気遣い、地域社会との連携を高め、いきいきと暮らすことができるまちづくりに努めます。
- 一、私たちは報徳の教えである「勤労」、「分度」、「推譲」の精神に基づき、個々が役割を考え、個々の強みを活かし、自ら行動をおこし、地域社会に役に立てるひとつづくりに努めます。
- 一、私たちは報徳の教えである「心田開発」の精神に基づき、人と人との繋がりに感謝し、その恩に報いる真心を持ったひとつづくりに努めます。
- 一、私たちは「報徳」、「積小為大」の精神に基づき、東日本震災により被災した子供たちに寄り添い、令和という新たな時代も共に歩み、見守り続けることに努めます。

江戸時代後期の農政家・二宮尊徳（金次郎）にゆかりのある自治体関係者や市民が集う「第25回全国報徳サミット」を、11月9日、明野公民館で開催しました。本市での開催は、平成19年以来、12年ぶり2回目で、全国各地から約1,000人が参加しました。天災が相次ぎ、疲弊した江戸時代の様子を令和の今に重ね、各地の農村を救済した尊徳の教え「報徳仕法」の重要性を改めて噛みしめる機会となりました。

下館音頭とクラシックバレエの歓迎アトラクションで華やかに幕を開けたサミットでは、五所小学校の児童による紙芝居形式での学習成果の発表のほか、尊徳の子孫である中桐万里子さんの基調講演、各市町の代表がそれぞれの自治体の取り組みについて意見交換を行う、パネルディスカッションを行いました。

また、会場の外では、地元特産品の販売やボランティアによる豚汁の無料提供などで来場者をもてなしました。今回の全国報徳サミットは、静岡県掛川市で開催される予定です。

基調講演 一人ひとりが主人公として 一歩前に足を踏み出すことをやめないで

講師を務めたのは、二宮尊徳から7代目の子孫である中桐万里子さん（関西学院大学講師、国際二宮尊徳思想学会常務理事、二宮金次郎基金名誉顧問など）。講演では、「報徳」の教えを現代の言葉に置きかえ、やさしく語りかけるような口調で解説。「私たちは、誰かの役に立つことができたとき、生きている実感や誇りを感じることができます。『心田を耕す』とは、幸せを受けようとするのではなく、与えようという発想を持つことが大切だという意味です。また、一粒の種は食べてしまえばそれで終わり。でも、その種を蒔いて育てれば、必ず万倍の実りが生まれます。『恩送り』とは種を、未来に送ることこそ、繁栄していくということです」などと語りました。



中桐万里子さん

おもてなし

会場の外では、温かい飲み物や豚汁が無料でふるまわれました。また、オープニングアトラクションでは下館音頭、クラシックバレエが披露され、全国からの来場者をもてなしました。



豚汁の無料提供



下館音頭



クラシックバレエ

次回開催市へバトンタッチ

大会宣言決議後、次回開催地の静岡県掛川市へブロンズ製の二宮金次郎像を引き継ぎました。



パネルディスカッション

参加市町の代表者 15 人が「報徳仕法に学ぶ心豊かでたくましく生きるひとづくり・まちづくり」をテーマに、各々の現状や取り組みについて報告しました。



福島県浪江町長
吉田敦博氏



福島県大熊町教育長
木村政文氏



福島県南相馬市長
門馬和夫氏



福島県相馬市生涯学習部長
赤石澤珍夫氏



北海道豊頃町副町長
菅原裕一氏

浪江町もかつて報徳仕法を取り入れて、復興した歴史があります。その歴史に学び、震災復興を進めたいと考えます。

今年、本庁機能の一部が回復するなど、震災復興が一歩ずつ進んでいます。「一歩前進」を掲げています。

現在、震災復興が少しずつ進んでいます。尊徳の教えを生かし「100年のまちづくり」を掲げています。

尊徳の教えと精神は今なお市民の間で受け継がれ、各小学校では、その教えを教育課程に取り入れています。

現在、「モノ・ヒト・コト」の交流で地域経済を活性化させる仕組み「互産互生」を推進しています。



福島県茂木町教育長
澤村悦男氏



福島県岡田町教育長
田上富男氏



福島県日光市教育長
齋藤孝雄氏



福島県須賀川市長
川俣純子氏



茨城県桜川市長
大塚秀喜氏

町民と職員が地域の課題を一緒に考え、行動し、責任と喜びを分かち合うまちづくりに取り組んでいます。

尊徳精神を学べる「米作り体験事業」を始めました。尊徳の教えをまちづくりや教育分野に取り入れています。

尊徳の実績と思想を学び、今後のまちづくりなどに生かすため「二宮尊徳記念館」など3施設を開館しました。

尊徳の教えを学ぶ公民館講座の実施や小学生向け副読本の発行など、ひとづくり・まちづくりを続けています。

報徳精神を受け継ぎ、自然を大切に、自然と共生・発展するまちづくりを目指していきたいと考えます。



大会会長
須藤茂市長



静岡県御殿場市教育長
勝亦重夫氏



静岡県掛川市長
松井三郎氏



神奈川県秦野市教育長
内田賢司氏



神奈川県小田原市長
加藤憲一氏

大会開催にご協力いただいたみなさんに感謝します。報徳仕法を生かすことは、豊かな人生を送るために、大変意味深いものです。

子育て支援に力を入れています。また小・中学生向けの副読本を発行し、教育分野でも力を入れています。

「互産互生」による交流を更に進め、良い人材が地元で活躍できるまちづくりに取り組んでいます。

報徳仕法を広める講演会や小学生向けの副読本など、幅広い世代が報徳仕法を学べる機会を提供しています。

まちづくりには人材育成が必要と考え、「おだわら市民学校」を開校し、「徳の掘り起こし」に取り組んでいます。

子々孫々まで永年な地域であることを願い

二宮尊徳廻村之像建立

11月8日、報徳壹圓塾（小石川功塾長）から道の駅グランテラス筑西に寄贈された二宮尊徳像の除幕式が行われ、塾生や報徳サミット参加者らが除幕の瞬間を見守りました。

